

田中 義人 議員 … 1件の一般質問

旭ヶ丘総合公園の通年利活用について



町長：スキー場夏季利用整備構想の策定を進めている

田中

①旭ヶ丘総合運動公園を運営する根拠条例が複数あり、管理体制が複雑。管理を一元化し、利用を容易にして通年活性化を図るべき。町長に見解を伺う。

②スキージャンプ台や雪上車の老朽化が激しく、安全面からも早期に撤去もしくは補強を行なうべきと考える。町長と教育長に見解を伺う。
③旭ヶ丘スキー場でも外国人スキー客へのスクールを受け入れれば入客を増やすことは可能と考える。教育長に見解を伺う。

町長

①スポーツ施設については教育委員会、その他の部分を建設課で管理している。新たな事業実施の際はそれぞれの所管課が調整を図らなければならない点は複雑かもしれない。現在、町において旭ヶ丘スキー場夏季利用整備構想の策定を倶知安観光協会に委託して進めているところ、それにより公園の利用や施設整備が一元化に向けた管理体制の整備が図られると考

ている。

②雪上車は、平成6年に導入し、毎年200万円程度の維持管理費がかかっている。ジャンプ台については昭和44年の設置以降、平成8年の町長杯を最後に、ルール変更などで規格不適合となり使われていない。撤去か保存かは、費用の面から結論を先送りしてきた。

しかし、老朽化による想定外の事故発生も予見される。安全性を考え撤去する方向で検討していく。

教育長

②圧雪車についてははシーズン途中で故障し、休業したケースもある。これまでも更新を協議してきたが、金額が大きく、補助金もないことから見送ってきている。続けて更新を求めて協議をしていきたいと考える。

ジャンプ台については、町長の答弁通り安全面を最優先に考え、経済的で効率的な撤去方法などを協議しながら進めていきたいと考える。



FT コース

田中

通年活性化の観点で夏の旭ヶ丘スキー場でフロートレイル（以下FT）というマウンテンバイクコースを造り実証実験を行った。倶知安町が倶知安観光協会に委託した事業で、11日間で延べ800人以上の利用者がありました。そのコースを残すか否かが問題となりましたが、町長はスキー場運営に支障がないよう盛り土の一部を埋め戻す事、積雪後に圧雪車による整地に対応するよう指示しました。FTを一年で止めるなら最初からしない。コースはなるべく残し、来年度も続けたい。そう関係者との打合せの場で明言されていましたが、結果として全面を重機や圧雪車で埋め戻されてしまいました。

問題は町長の指示を聞かず、現場の判断のみで作業が進められたのならば、地方公務員法に抵触するのではないかと？

また、ジャンプ台を撤去する方向であればスキーのコースを広げ、散策路やFTコースを常設

させ通年活性化を図ることも可能では？

町長

作業の程度の理解度に違いがあった。FTのコースを残してくれという思いと、全面的にある程度、平にならし、安全策を講じたという現場の意向との違いだ。全てが私の指示違反という捉え方にはならないと考える。ただし、造成時から含め、もつと現場に出ていき、共通認識の中で作業をする必要はあったと考える。

ジャンプ台撤去後は、コースが広がると考えている。夏はFT、冬はモーグルコースにする可能性は十分にあると思つた。撤去後の利活用についても、皆さんからご助言いただき取り組みたい。